

< 父親失格 >

私の子育て論

私が結婚したのは日本共産党専従となって2年目、26歳のときだった。当時、専従の最初の仕事として「赤旗分局員」の任務についた。毎日午前2時頃、大阪の印刷所から届いた新聞の梱包を車で受け取り、当時左京、東山、山科の十数ヶ所の販売所（と言っても個人の家の軒先や倉庫）に「ポスト落とし」をする。それを配達員が各戸に配達していく。結婚式には小学校の5年の時の先生も来てくれたがスピーチのなかで「共産党はひどい。帝国大学を卒業して新聞配達か」という話をされたのを今でも覚えている。

私は岡山の漁師の家に5人兄弟（末っ子だけ娘）の3番目で育ったが「育児」といった概念はまるで無い。どの家でも子どもたちは放ったらかしであった。したがって「子どもたちは手をかけなければ素直に育つ」と信じきっていた。だから「子どもたちだけで楽しくにぎやかに遊べるように」（親は手をかけなくてもすむように）と「子どもは4人くらいほしい」といって本当に4人人生んでもらった（妻に）。

ところが保育の専門家と結婚したのが計算違いの元、「子育てにもっとかかわってくれなければ」とあれこれとうるさいことしきり。しかしこちらにも毎日深夜までの党専従としての仕事があり、信念があるので一切聞く耳持たずで子どもの人数が増え、大きくなるに従って対立はますます深刻に。ついに「世の中を変えようという日本共産党の専従が自分の家のこともまともに責任を持ってないようで何ができる！」ときびしい指摘をいっばい書き込まれた「交換ノート」が每晚机の上におかれるようになった。こちらも「そんなことを言っても選挙があり新聞配達があり 党専従が自分の家の都合を優先していたら組織は動かない！」と今でいうモーレツ社員の典型のような「反論」を書き込んで置いておく。とまたそれに対していっそう激しい反論がされる。（なにしろ育児の専門家だけあってなにを言っても言い負かされてばかりだった）

まだ東山三条に住んでいたある夏の忙しい日のこと、子どもたち（長女は小学4年）4人が「お父さん、田舎（妻の実家の水口）へ行こうよ」とあまりにもうるさいので「三条通りをずっと東に行けば水口まで行けるぞ」といったら本当に子どもたちだけで出かけてしまった。やがて夕方「こちら追分の派出所ですが子どもさんたちが来ています」と電話がかかってきた。山科を通過して滋賀県境まで歩いて行ったらしい。

やがて左京に転居、長女が小学校6年の時、市議員

選挙に出ることになり、町中に顔写真のポスターが張りめぐらされ、家の中でも子どもたちも（その時は長女6年、4年、2年、1年の男3人）微妙なムードとなった（妻からは離婚届）やがて娘は中学校進学というこの時になってはじめて「このままではどうしようもない」との思いで「子どもが中学生になったら」といったハウツー物の本を数冊手にして真剣に読んだ。しかしそれまでの「任務放棄」の穴はその程度で埋まるはずもなかった。

田中昌人先生との出会い

やがて長男が中学校進学 しかし登校拒否（不登校）となった。原因がわからず悩み続けてとうとう児童福祉センターに相談に行ってみると、「 症候群です」と診断されて発達が少し遅いこともあるといわれ、結局中学3年間は児童福祉センター内の青葉寮から二条中学の青葉学級に通学し、高校は山城定時制を卒業した。

この時に京大教育学部におられた田中昌人先生にも相談にのっていただいたが、それがきっかけで田中先生の本を読むことになった。私は学生時代から「社会変革こそ使命」と思い込み、科学的社会主義の哲学を聞きかじってきたが、あくまでそれは自然と人間社会の発展法則に関する理論の問題だった。ところが田中先生の本を読んで人の成長・育児にも理論があるということを知って「えっ、人の誕生から成長にいたる過程にも発展法則があるのか！」と正直驚いた。それからいろいろの講演会などにも参加して育児・保育・教育の本も読み始めた。「人知りそめし」（母親のことかな）「物知りそめし」（おもちゃのことかな）「我知りそめし」（自我の発生）理（ことわり）知りそめし」の各段階で節があり、それぞれの適切な支え（保育・教育）があって人としての成長が保障される。（不適切な介入や放置では成長が阻害される）といった大まかな田中理論のさわりの部分だけは今も頭の隅っこに残っている。「田中昌人は『人間の発達』について、その弁証法的な変化発展の解明に全力を尽くしてきた。『発達の階層 段階理論』として明らかにされてきたその全容は、さながら発達の曼陀羅（マンドラ）を見るが如くきらめくばかりの美しい人間の発達のすがたである」と高谷清先生も書いておられる。（人間発達研究所通信）

家で「保育・教育って大切な仕事なんだなあ」と口にしたら「気づくのが20年遅い」と言われてしまった。



短大で保育を担当する長女と料理人の次男の保育園当時の写真